

人でにぎわう大橋駅周辺空間づくりについて

～ヨーロッパのまちのような歩きたくなる空間を～

令和4年度市民まちづくり研究員 野口 貴光

はじめに

今回のテーマを設定した背景について、大きく以下の3つの要因がある。

1つ目は、学生時代に訪れたドイツ、ヨーロッパのまちの通り、広場で感じた、人々が歩いたり、佇んだり、人々が空間に集まることで醸し出されている「にぎわい」に心地よさを感じたことであり、日本にも同じような空間があったら良いなと思ったことである。

平成16(2004)年9月、大学の研修旅行でドイツを訪問した。この時に受けた衝撃は今でも忘れられない。観光地ではない中規模のまちであっても、人々が通りを歩いており、広場に佇んでおり、それによりまちがにぎわっていた。その翌年、ドイツ以外のヨーロッパ13カ国のまちを訪れる機会を持ったが、それらの国々でも同じような空間が存在した。「日本にもこのようなまちがあればよいのにな。」21歳の若輩者がそのとき抱いた気持ちである。

2つ目は、自分が暮らし、日常的に利用する生活圏内の地域に、ヨーロッパで感じたような空間があることで、自分の人生を豊かなものにしたいと思ったことである。

上記の通り、学生自体のドイツ訪問で抱いた気持ちがあった。しかしながら、その気持ちを抱きつつも何もできないまま20年近く月日は流れた。足早に過ぎていく日々の中で、仕事だけでなく、家庭だけでなく、自分が日々暮らしていくまちに何かできることはないだろうか、学生時代に抱いた気持ちを何かしらの形にできないだろうかと考えた。

3つ目は、福岡市の中心である天神、博多に加えて、各行政区の拠点となる場所にヨーロッパで感じたような空間があれば、福岡市が更に元気なまちになると考えることである。

福岡市は住みたいまちランキングでも常に上位にランキングする、都会と自然が同居した非常に住みやすい都市であると一市民として実感している。福岡市の中心である天神、博多のにぎわいのある場所に加え、人々が日常的に訪れる周辺の核となる場所に、人々が歩く、にぎわいのある空間を作り出すことはできないだろうか。そうすることにより、天神、博多だけではなく福岡市全体が、人々が歩き、活性化したまちになり、福岡市が更に元気で住みやすい都市になると思料する。

私は現在、福岡市南区に住んでおり、日常的に大橋駅を利用している。天神と博多にも比較的アクセスがよい場所に住んでいるものの、天神、博多を訪れることは月に1～2回程度である。一方で、大橋駅には、仕事がある平日はほぼ毎日訪れているが、特に何をすでもなく通り過ぎている状態である。

大橋は南区の拠点地区と考えており、私はその大橋駅を日常的に利用している。ここがにぎわっている場所であれば、私の日常はもっと活気があり、豊かなものになるのではないか。

そのため、今回、私自身が住んでいる南区の中心である大橋駅を舞台に設定し、私がヨ

一ロッパで感じたような、人々が歩きたくなるような、にぎわいのある空間づくりを考察してみたいと考えた。

考察にあたっては、まず、「にぎわい」の定義を設定し、天神、博多以外の場所で「にぎわい」を作り出すことが必要と考える理由を述べたい。

その上で、今回考察の対象とする大橋駅周辺の現状の問題点を考え、「にぎわい」ある空間に変えていくための施策について提言したい。

なお、提言した施策については、今後、大橋において、実践する道を探っていきたいと考えている。また、大橋以外の福岡市の拠点地区で実践できることについても提言したいと考えている。

1 人でにぎわう空間とは

(1) 人でにぎわう空間の定義

初めに、本論文において、人でにぎわう空間とは、以下の2つの要素がある状態と定義したい。

【にぎわい要素①】

…人がその場所に滞留し、物理的に集まっている状態
(感覚的にはなるが、場所の広さに対しある程度の数の人の集まりが生じている状態)

【にぎわい要素②】

…集まっている人が、その場所で何らかの活動をし、
活気が生み出されている状態



写真1…ヨーロッパの広場

出典：著者撮影

広辞苑によると、「にぎわい」の定義は、「①富み栄える。ゆたかになる。②にぎやかになる。人出が多い。」とのことであり、②の内容が本論文における定義を表している。

(2) にぎわう空間の必要性

(1)で定義した通り、空間がにぎわっているということは、その空間に人が一定数集まっており【にぎわい要素①】、その空間で人々が活動し、活気がある状態【にぎわい要素②】のことである。

これにより、人と人とのつながりが芽生えているということである。人と人とのつながりは、日々の生活に活気を生み出し得るものであり、私たちの人生を豊かにすることにつながる可能性があるのではないかと。

特に日本においては、人口減少社会、地方の衰退が進んで行っており、身近な生活圏に人と人とのつながりを生み出す、にぎわいのある空間が存在する必要性が高まっていると言えるのではないだろうか。



写真2…ヨーロッパのマルシェ

出典：著者撮影

(3) にぎわっている空間の事例

ここで、国内外のにぎわっている空間の事例に触れたい。

①ヨーロッパの事例

(ア) レーマー広場（ドイツ・フランクフルト）

○ドイツ第2の都市フランクフルトの旧市街にある広場で、ゴシック様式の木造建築物が建ち並んでおり中世ドイツの雰囲気醸し出している。

○広場中央に噴水があり、市民の憩いの場になっている。

⇒憩いのため人が集まっている【にぎわい要素①】

○夏祭りやクリスマスマーケット、スポーツイベントの開催場所として多くの人でにぎわっている。

⇒イベントで人が集まっており、かつそこでイベントに参加している【にぎわい要素①、②】

○広場周辺にレストランや土産物屋、気軽にソーセージやビールを楽しめるスタンドも年中あり、にぎわいがある。

⇒観光客や地元の人が広場に集まっており、飲食等することで活気が生じている【にぎわい要素①、②】

(イ) フライブルク旧市街（ドイツ・フライブルク）

○ドイツ南西部に位置する人口23万人のまちで、環境重視のまちづくりを進め環境都市として世界から注目を集めている。

○旧市街への自動車乗り入れを抑制し、路面電車を中心に自転車、徒歩を利用する政策を実施した結果、旧市街地は人が歩き、にぎわっている。

⇒まちの中を人が歩いている【にぎわい要素①】

○旧市街地にある市庁舎広場ではレストランやカフェの席があり、いつもにぎわいがある。またクリスマスマーケットでもにぎわう。

⇒観光客や地元の人が広場に集まっており、飲食等することで活気が生じている【にぎわい要素①、②】



写真3…レーマー広場

出典：著者撮影



写真4…フライブルク旧市街

出典：著者撮影

②日本の事例

(ア) 豊田市駅西口ペDESTリアンデッキ（愛知県）

○道路という公共空間を市民・民間主導により有効活用したにぎわい、くつろぎ空間の創出の取組みを実施

○道路（公共空間）を利用して、カフェ・バーやビアガーデン等のおもてなし空間を醸成したり、パブリックビューイング等のイベントの開催によりにぎわいを創出

⇒駅利用者や地元の人が集まっており、飲食やイベント参加により活気が生じている【にぎわい要素①、②】



写真5…豊田市駅パブリックビューイング

出典：中心市街地活性化協議会
支援センター

(イ) 日向市駅（宮崎県）

- 日向市都市デザイン会議において、駅の高架化、駅周辺の区画整備、商業集積事業の3事業を一体的に推進
- 高架下を有効活用し連絡通路兼市民の憩いの場(700㎡)を整備するとともに、駅西口にステージ付の交流広場を設け、地域住民の子どもが遊んだり、市外から来る人も楽しめる空間として整備
⇒市民や市外から人が集まり、広場で遊んだり、イベントに参加している【にぎわい要素①、②】



写真6…日向市駅西口広場

出典：小野寺康都市設計事務所

2 人でにぎわう空間を大橋で目指す

(1) 福岡市の現状

福岡市は人口162万人の大都市であり、九州の行政、経済の中心地である。平成22(2010)年以降は、人口増加数、増加率とも政令市の中で最も高く、人口減少が進む日本において、現在もなお年間1万人を超えるペースで増加傾向にある。

東京、大阪に本社を置く企業が支店等を置く支店経済都市であり、三大都市圏に次ぐ高い経済力を持った地方中枢都市である。また、福岡市で開催される国際会議数は東京に次ぐ2位で国際会議観光都市に指定されており、14の大学、9の短期大学が立地する学生の街でもある。

福岡市の都心は天神(中央区)と博多(博多区)である。

天神地区は西鉄福岡(天神)駅・福岡市地下鉄天神駅のほか、多数の百貨店やファッションビルが集積する九州最大の繁華街である。福岡空港が中心市街地と近接している関係で市内中心部には航空法上の高さ制限が設定されているが、高さ制限を緩和して民間のビルの建て替えを行う再開発計画「天神ビッグバン」が進行中である。

博多地区はJR博多駅があり、多数の新幹線や特急列車が九州各都市を結んでいる。また、福岡空港も地下鉄で数分と至近距離であるため、博多駅周辺は大企業の支社が集積するビジネス街となっている。九州新幹線の延伸に伴い、博多駅周辺の商業施設の集積も進んでいる。

福岡市の副都心としては、西新(早良区)、香椎(東区)、大橋(南区)、姪浜(西区)が挙げられる。



写真7…天神

写真提供：福岡市



写真8…博多駅

写真提供：福岡市

(2) 天神、博多以外の拠点地区の活性化の必要性

上記(1)で述べた通り、福岡市の都心は天神と博多であり、この2大拠点に商業機能をはじめとした様々な機能が集中しており、人が集中している状況である。これ自体は必ずしも問題があることではないと考えるが、すべての人が日常的に天神、博多に行けるわけではない。

通勤、通学等により日常的に訪れる場所が、人がその場所に滞留し、物理的に集まっている状態（【にぎわい要素①】）、その場所で何らかの活動をすることで活気が生み出されている状態（【にぎわい要素②】）を有するにぎわいがある場所であったらどうだろうか。私たちの日常は活気のあるものになるのではないだろうか。

また、通勤、通学をしていない人にとっても、天神や博多よりも近い場所に活気がある場所があれば、訪れる頻度は増えるのではないだろうか。

なお、日常の生活圏の中に活気がある場所を作り出すことで、私たちの暮らしを活気があるものにすることが目指す姿ではあるものの、これは結果的に、福岡市全体の更なる活性化につながると考えている。

日常的に訪れる場所としては、各々の地域に住む人々が通勤、通学や買い物の際に利用する公共交通の駅周辺が候補になると考えており、以下の通り、福岡市内の各行政区に存在すると考えている。

<西新（早良区）>



写真 9…西新商店街

写真提供：福岡市

<姪浜（西区）>



写真 10…地下鉄姪浜駅

出典：著者撮影

<六本松（中央区・城南区）>



写真 11…六本松

出典：著者撮影

<香椎（東区）>



写真 12…J R香椎駅前

写真提供：福岡市

<大橋（南区）>



写真 13…西鉄大橋駅

出典：著者撮影

（3）西鉄大橋駅前広場のにぎわう空間づくり

私は現在、福岡市南区に住んでおり、通勤のため日常的に大橋駅を利用している。一方、天神、博多には、月に1～2回程度、買い物に行く程度である。

しかしながら、日常的に訪れる大橋駅周辺で何かをしているかというところは何もしていない。通勤電車に乗るために通り過ぎているだけである。また、仕事が休みの土日に大橋駅に行くことも基本的にはない。

これらの理由は、大橋駅周辺に行ったり、そこで何かをする目的がないからである。つまり、大橋駅には、人がその場所に滞留し、物理的に集まっている状態（【にぎわい要素①】）、その場所で何らかの活動をすることで活気が生み出されている状態（【にぎわい要素②】）を有するにぎわいがある場所ではないと考える。

この日常的に訪れる場所、比較的近い生活圏内ににぎわいのある場所であれば、私の暮らしはもっと活気があり、豊かなものになるのではないだろうか。

上記（2）で述べたように、大橋は南区のにぎわいの拠点となり得る場所と考える。

そのため、今回、南区の拠点地区である大橋駅を舞台に設定し、にぎわう空間の実現が可能かを考察したい。

3 大橋駅周辺の現状・課題

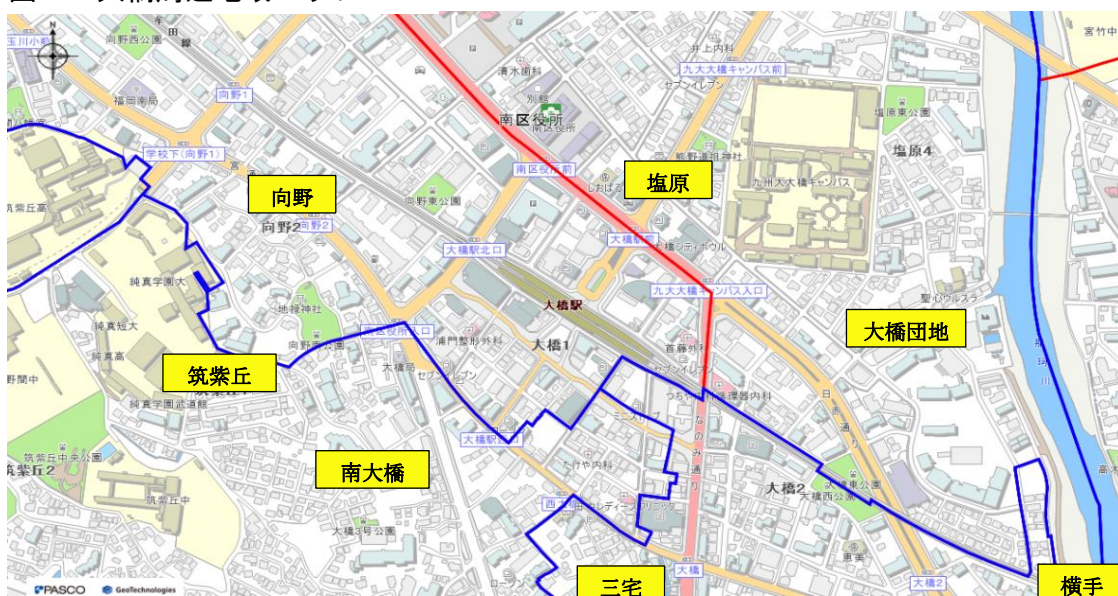
（1）現状

①大橋駅周辺の概要

まずは、大橋の概要について触れたい。

大橋は、福岡市南部に位置する。北で塩原、北東で大橋団地、東で那珂川を跨いで横手、南で三宅、南西で南大橋、西で筑紫丘、北西で向野と隣接する。福岡市の副都心機能を持ち、九州大学大橋キャンパスが近いこと、学生街としての顔も持つ。福岡市南区の商業地区および住宅街であり、西鉄大橋駅付近は南区の中心市街地にあたる。

図1…大橋周辺地域マップ



地図引用：福岡市 Web まっぷをもとに著者作成

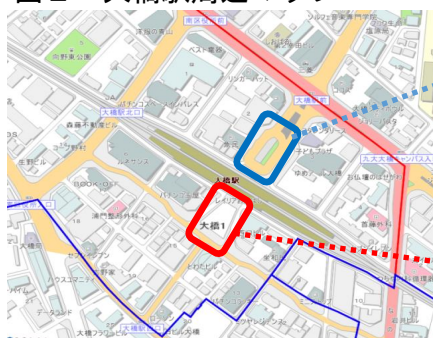
この大橋において、人が集まる中心となるのは西鉄大橋駅であり、大橋駅は大きく東口広場と西口広場にわかれている。

東口広場は、JR竹下駅方面の玄関口であり、バスターミナルやタクシーターミナルを有しており、市内各地にバスでアクセスできる交通拠点の役割を担っている。令和4（2022）年4月にららぽーと福岡が開業して以降、東口のバスターミナルに並ぶ人は増えている印

象を受ける。

西口広場は、住宅街方面の玄関口であり、出ですぐのところに西口広場（通称ハト公園）を有しており、その先には飲食店や店舗等が多く建ち並ぶ。

図2…大橋駅周辺マップ



地図引用：福岡市 Web まっぷを
もとに著者作成



写真 14…大橋駅東口広場

出典：著者撮影



写真 15…大橋駅西口広場

出典：著者撮影

②大橋駅周辺の現状

大橋駅の乗降者数は、31,491 人／日となっており、西鉄電車の中では福岡（天神）駅（92,169 人／日）に次いで2番目に多く、福岡市営地下鉄、J R九州も含めた福岡県の鉄道駅の中で7番目に多い⁽¹⁾。これは、福岡市営地下鉄西新駅（31,619 人／日）と同程度であり、J R九州小倉駅（25,014 人／日）よりも多い⁽²⁾。つまり、大橋駅を日常的に利用する人は多いと言える。

しかしながら、大橋駅が鉄道利用の目的以外でにぎわっているかと言うと、なかなかそうは言えないと考える。

上記①で述べた通り、東口広場はバスターミナルがあり、ららぽーと福岡の開業に伴い利用者が増えており、交通拠点としての役割を果たしていると思われる。しかしながら、あくまでバスに乗り換えるためにバス停に人が並んでいる状況であり、人は集まっているが、何か活動することによる活気があるわけではなく、【にぎわい要素①】はあるが、【にぎわい要素②】はない状態であり、にぎわいがある状態とは言えない。

西口広場の状態は非常に寂しいものだ。面積 2,350 m²の程よい広場であるにも関わらず、以下の写真の通りである。2～3か月に一度のペースで週末に、まちづくり関係団体がイベントを開催する際は人だかりができるが、それ以外は、平日、週末、朝、日中、夕方、夜と関係なく、閑散としていることが多い。つまり、人も集まっておらず、何か活動することによる活気も生まれていない。【にぎわい要素①】、【にぎわい要素②】ともない状態であり、日常的ににぎわいがある状態とは言えない。

表 1…大橋駅西口広場のにぎわい状況

	平日	土曜・日曜	コメント
8 時頃 ～ 9 時頃			平日は通勤、通学客で人は多いが、電車に間に合うように急いで通り過ぎている。土日は天神に買物に向かう人々で人数が増えると思っただが、平日とさほど変わらない。
12 時頃			ベンチに座って軽食を食べている人や飲食デリバリーの配達員等が待機しているが、閑散としている。
15 時頃			12 時頃の様子と特段変化なし。
19 時頃			平日は帰宅する人々で人が多くなるが、朝の反対で、家路に向けて通り過ぎている。また、平日、土日とも、飲みに行くための待ち合せ等の人々は見られる。

出典：著者作成※表内の写真はすべて著者撮影

③大橋駅と同程度の規模の駅（他行政区の拠点等）周辺との比較

大橋駅と同程度の規模の駅として、上記②で挙げたように、地下鉄西新駅と JR 小倉駅がある。

<地下鉄西新駅>

西新駅を出ると、地下鉄藤崎駅までの一駅区間（約 1.6 km）、日用雑貨、カフェ、飲食店、スーパー等様々なお店が建ち並ぶ商店街（西新中央商店街、中西商店街、高取商店街、藤崎商店街）が軒を連ねている。また、西新は近くに大学や高校がある学生の街でもある。

この 4 つの商店街は一本道で伸びており、かつ、日常的に私たちが利用する頻度が高い店舗が連なっており、歩いて買物等がしやすいためもあってか、日常的に人が歩いており、特にイベント等がなくても活気がある。つまり、日常的に【にぎわい要素①、②】があり、

にぎわっている状態があると考える。

大橋駅周辺にも大橋商店街と呼ばれるものはあるものの、店舗が点在しており、西新商店街と同様ににぎわいをもたらすに至っていないと思われる。

< JR小倉駅 >

小倉駅の在来線改札前には J AM 広場というイベントスペースがあり、駅ナカ本の市や観光物産展等のイベントが定期的開催されており、駅利用者でにぎわっている。今回、日常的な状況までは調査できていないが、私が過去に訪れた際の印象としては、普段は JR 利用の目的で人が集まっている状態ではないかと考えている。イベント開催時には、【にぎわい要素①、②】が生じているが、日常的ににぎわっているとまでは言えないのではないかと考える。

この点、大橋駅の現状と似ているのではないかとと思われる。

④大橋駅周辺のにぎわいの現状

②で述べた通り、大橋駅周辺は日常的ににぎわいがある状態とは言えない。

大橋駅西口広場では、平成 20 (2008) 年度から福岡市南区役所、地域、商店街、西鉄、商工会議所等で「大橋周辺活性化委員会」が組織され、「楽しかおおはし」というイベントが定期的開催されていたが、地域主体の持続可能な形態に転換を図るため、現在は委員会のメンバーが平成 30 (2018) 年度に設立した一般社団法人街×人 (マチビト) という団体に活動を引き継がれており、南区役所としてはイベントの際の道路使用許可関係のサポートをしている状況である⁽³⁾。

現在は、コロナの影響もあってか、かつてほどイベントは開催されておらず、一般社団法人街×人 (マチビト)、西鉄レイリア大橋等の団体によるイベントが時々単発で開催されている状況である。イベント開催時には西口広場に人が集まって (【にぎわい要素①】) おり、イベントにより活気がある状態 (【にぎわい要素②】) であり、大橋駅周辺のにぎわいづくりにつながっているが、1~2 日程度のイベントであり、恒常的な大橋駅周辺のにぎわいづくりにとはつながっていない。

(2) 問題点

上記 (1) で触れた通り、大橋駅において東口広場は、担っているバスターミナルとしての交通拠点の役割を果たしているのではないかと考える。しかしながら、人の集まりはあるものの、そこで何か活動がなされているわけではないため、にぎわいがある状態とは言えない。バスを待っている人々に対して、何か活性化するための活動を検討することも手法としてはあると考えるが、東口広場は交通拠点としての役割と割り切ってもよいと考える。

一方で、西口広場については、人が滞留せず通り過ぎる空間となっており、有している広場としてのポテンシャルを有効に活用できていないのではないかと考える。では、なぜ人が滞留し、物理的に集まっている状態 (【にぎわい要素①】)、その場所で何らかの活動を行うことで活気が生み出されている状態 (【にぎわい要素②】) がないのだろうか。私が考える大橋駅西口広場の問題点を以下に列挙したい。

表 2…大橋駅西口広場の問題点

内容	【にぎわい要素】との関係	カテゴリー
○座る場所がコンクリート造りのベンチのため経年の汚れがあり、座りたいと思うような場所ではない。	【にぎわい要素①】の弊害 ⇒ヨーロッパの広場では人が座ったり、広場に佇んでいる状態。その場で佇もうという気持ちになる空間がある。	場
○ゴミやタバコが捨てられていたり、鳩の糞が落ちていて、汚い。		
○気軽にテイクアウトできるような屋外カフェや軽食店舗がない。	【にぎわい要素①】の弊害 ⇒ヨーロッパの広場にはカフェがあることが多い印象がある。気軽に飲食物が手に入れば滞在しやすくなる。	店
○守り神のクスノキをはじめ木々は多いが、カラフル感に欠ける。	【にぎわい要素①】の弊害 ⇒色とりどりの花が咲いていると、気持ち明るくなる。	景観
○全体的に暗い雰囲気でお洒落な雰囲気がない。	【にぎわい要素①、②】の弊害 ⇒ヨーロッパの広場ではマルシェが開催されていることも多くにぎわっている。カフェも多い。	雰囲気
○広場周囲に車道があるため、閉塞感がある。		
○広場ではなく道路という位置づけであるため、常設利用はできない ⁽⁴⁾ 。一時的な利用についても、警察署への道路使用許可の申請が必要なため、煩雑である。	【にぎわい要素①、②】の弊害 ⇒にぎわい作りを都度行う必要があるため、にぎわい作りへのハードルが生じている。	仕組み

※にぎわい要素①…人がその場所に滞留し、物理的に集まっている状態

出典：著者作成

にぎわい要素②…集まっている人が、その場所で何らかの活動をし、活気が生み出されている状態

(3) 課題

大橋駅西口広場は、毎日延べ 30,000 人、同一人物が乗降で利用すると仮定した場合でも 15,000 人の人々が訪れる場所であり、かつ 2,350 m²もの広さを持ち、広場としてのポテンシャルを有しているにもかかわらず、それを有効に活用できていないことが課題と考える。

(2) の問題点でも挙げた通り、西口広場は、広場や公園という扱いではなく道路であり、その活用に制約がある状態である。イベント等で一時的なにぎわいを作り出すことは可能ではあるものの、日常的なにぎわいを作り出すことが非常に困難な状況であるという問題点がある。この状況を改善してくためには、行政への働きかけ、協力者、お金が必要であり、これらに対して、どの様に対応していくかが課題と考える。なお、本



写真 16…西口広場の看板

出典：著者撮影

論文においては、広場の常設利用が困難であることを過度に考慮せずに、理想の姿を描きたいと考えている。

4 大橋駅周辺で目指す姿（大橋駅西口広場をリデザインング）

（1）誰のための取組みなのか

にぎわっている大橋駅周辺の空間は誰のために必要なのか。ターゲット層は大きく分けて2つあると考えている。

一つ目のターゲットは、通勤や通学、買い物等で日常的に大橋駅を利用する人々である。このような人々を鉄道利用前後に通り過ぎるだけにしておくのではなく、佇ませる仕掛けを作り出すことで、空間のにぎわいにつなげる必要がある。このターゲット層の人々にとっても、日常的な大橋駅の利用のついでに、人とのつながりを享受し、元気の源となる時間を過ごすことができるというメリットがあると考ええる。

二つ目のターゲットは、大橋駅が最寄りになる近隣住民に、天神、博多に足を運ぶのではなく、大橋駅を訪れてもらう仕掛けを作り出し、空間のにぎわいにつなげることである。このターゲット層の人々にとっても、住居からある程度近い大橋駅に行くことで、天神、博多まで行かずとも、必要な買物をすることができたり、そこで馴染みの人と会うことができるというメリットがあると考ええる。

（2）にぎわっている空間とは

にぎわっている空間とは、商業店舗や飲食店等が建ち並び、その店舗を利用する人々が多く集まってきている空間なのだろうか。あるいは、催し物等のイベントにより一時的に人が集まっている空間なのだろうか。

確かにこれらもにぎわっている空間の一つの形であるだろう。しかしながら、私が考えるにぎわっている空間とは別のものであり、以下にそのイメージを列挙する。

表3…にぎわっている空間のイメージ例

内容	【にぎわい要素】との関係	カテゴリー
○会社や学校帰りで駅を利用した人が、家に帰る前に広場にある屋外カフェや軽食店舗に気軽に立ち寄って、コーヒーやビールを片手に同様の人々とベンチに座って話をしている空間	【にぎわい要素①、②】を満たす ⇒人が座ったり、広場に佇むことができる状態。ベンチ、カフェ等の店がある。	場、店
○季節折々の色とりどりの花木が植えられた花壇や樹木が彩っている空間	【にぎわい要素①】を満たす ⇒色とりどりの花が咲いていると、気持ち明るくなる。	景観
○楽器を演奏する人がいて、その周囲に小さな人だけりができて空間	【にぎわい要素①、②】を満たす ⇒音楽は人を元気にする。	雰囲気
○野菜やフルーツを売るマルシェやキッチンカーがあり、小さい子連れの主婦（夫）やおじいちゃんおばあちゃんが夕食用に買物をしている空間	【にぎわい要素①、②】を満たす ⇒マルシェはにぎわいを生み出す。また、人と人のつながりも生み出す。	

出典：著者作成

上記は一例であり、3（2）で述べた大橋駅西口広場の問題点を踏まえカテゴリー分けをしているが、人が滞留し、物理的に集まっている状態（【にぎわい要素①】）、その場所で何らかの活動をする事で活気が生み出されている状態（【にぎわい要素②】）を満たす空間が日常的にあり、それにより人々が緩やかにつながっている状態をが理想の姿と考えている。

（3）理想の姿実現に向けた西口広場の施策

これまでに、3（2）で私の考える大橋駅西口広場の問題点を述べ、4（2）で私のイメージするにぎわっている空間のイメージ例を述べた。

これらを踏まえ、大橋駅西口広場ににぎわいを生み出すために、以下の施策を提言したい。

なお、この中でもまず、【にぎわい要素①】を作り出すために、「場」と「店」の施策が優先度が高いと考える。その上で、「景観」や「雰囲気」に関する施策も追加していき、【にぎわい要素①】の拡充、【にぎわい要素②】につなげていくことが望ましいのではないかと考えている。

表 4…大橋駅西口広場ににぎわいを生み出すための施策

カテゴリー	事例 この要素を満たすためには…	施策内容	にぎわい 要素①	にぎわい 要素②	にぎわい 効果
場	座って佇める場所の設置が効果的	①ベンチ（テーブルベンチ）の設置	○	○	◎
店	手軽に軽食購入できる店が効果的	②カフェ、屋外バーの設置	○	○	◎
景観	心が元気になるような視覚的な仕掛けが効果的	③季節折々の花で彩られた花壇	○	○	◎
		④西口広場のヨーロッパ化	○	○	◎
雰囲気	心が元気になるような働きかけが効果的	⑤マルシェの開催	○	○	◎
		⑥音楽が楽しめる広場	○	○	◎
仕組み	人が集まるハード施策が効果的	⑦歩行者天国化	○	○	◎
イベント	珍しいイベントが効果的	⑧野外ナイトシネマ上映	○	○	◎
その他	—	⑨地域のアート作品展示所（看板）	○	△	○

※にぎわい要素①…人がその場所に滞留し、物理的に集まっている状態

出典：著者作成

にぎわい要素②…集まっている人が、その場所で何らかの活動をし、活気が生み出されている状態

①ベンチ（テーブルベンチ）の設置【にぎわい要素①、②】

現在の西口広場には座ることができるコンクリート造りのベンチはあるが、一般にイメージするベンチはない。背もたれの付いているベンチを設置することで、読書をしたり、コーヒーを飲んだりリラックした時間を過ごすことが可能になり、人が滞留し、人が集まる空間につながる。



写真 17…ベンチのある光景
写真提供：福岡市

また、テーブル付のベンチを設置することで、軽食を取りながら、コーヒーやビールを片手に知り合い等複数人でおしゃべりをしながら時間を過ごすことも可能になる。

ベンチひとつの設置だけでもにぎわいの創出は可能と考える。

②カフェ、屋外バーの設置【にぎわい要素①、②】

現在も大橋駅構内にあるレイリア大橋という専門店街にはカフェや居酒屋が入っており、夕方の買物時間や昼、夜の食事時間はにぎわっているものの、エキナカ店舗となっており、西口広場のにぎわい創出にはつながっていない。

人が通る西口広場にカフェや屋外バー、軽食店舗があることで、帰り道の途中にコーヒーやビールを気軽に購入することができ、そのまま、広場にあるベンチに座って時間を過ごすことにつながる。その結果、人のつながりが生まれ、にぎわいの創出につながるのではないか。



写真 18…オープンカフェ
写真提供：福岡市

③季節折々の花で彩られた花壇【にぎわい要素①、②】

現在の西口広場には、シンボルツリーであるクスノキをはじめ木々があり緑が溢れる広場であるが、花壇の花の彩りに欠ける。広場にカラフル感を出すために、広場の複数個所に季節折々の花木を植える。大橋駅を訪れる楽しみになり、にぎわいの創出に繋がると考える。

また、花を管理する団体（ボランティア）に参加する人々の交流を生み出すことにもなるのではないか。



写真…19 一人一花運動
写真提供：福岡市

④西口広場のヨーロッパ化【にぎわい要素①、②】

中長期的な構想になるが、将来的に西口広場周囲の建物を建て直す際には、ヨーロッパ風の外観の建物とすることを建築協定等ルール化し、福岡のリトルヨーロッパ風の広場を目指してみてもどうか。博多区の吉塚商店街は、リトルアジア化し、にぎわい創出に成功している。現状、福岡でヨーロッパ風の雰囲気があるのは、天神のエルガーラ・パサージュ広場と博多駅博多口広場と思う。天神、博多以外のエリアではヨーロッパ風の広場はなく、ある意味早く名乗ったもの勝ち状態ではないかと思料する。大橋駅西口広場ではここ数年、大橋クリスマスマーケットを開催していることも踏まえ、ヨーロッパ風の広場にすることで人を呼び込み、にぎわいの創出につなげたい。

⑤マルシェの開催【にぎわい要素①、②】

ヨーロッパの広場を訪れると、マルシェが開催されることが多い。マルシェは自然と人を集める効果を持っており、ヨーロッパの広場がにぎわっている要素のひとつではないかと考える。

西口広場の中央にマルシェ区画を設け、フルーツや野菜を販売する店舗、デザート等の軽食を扱う店舗を常設する。加えて、区画の一部には大橋商店街の商店が輪番で入るた



写真 20…ヨーロッパのマルシェ
出典：著者撮影

めのスペースを準備し、大橋商店街を巻き込んで、大橋駅周辺のにぎわい創出につなげる
ことができる面白い。

⑥音楽が楽しめる広場【にぎわい要素①、②】

駅舎にスピーカーを設置し、広場に常時音楽を流してみてもどうか。

また、広場にストリートミュージシャンが演奏できる区画を設置しても面白い。

併せて、西口広場寄りの駅舎内に駅ピアノを設置し、誰でも自由に演奏できるようにす
る。JR九州内の駅舎ではいくつか事例があり、昨年はJR久留米駅に設置され、にぎわ
いと人のつながりに寄与しているようだ。西鉄駅では設置事例はないため、大橋駅に設置
し、西口広場のにぎわい創出につなげてはどうか。

⑦歩行者天国化【にぎわい要素①、②】

西口広場の左右及びそれに続く駅舎横は車道が通
っており（右図の点線囲い部分）、駅利用者の送迎や
広場周囲のお店への荷物運送のために利用されてい
る。この車道を歩行者天国化することで、車を気にせ
ずに安心して広場を利用することが可能となる。送迎、
運搬の車利用については東口広場に機能を集約する、あ
るいは広場前の車道に留めることで対応可能と考
える。

また、これにより西口広場の面積が拡大し、活用方
法の選択肢も広がる。広場周囲の建物にカフェやレス
トランが入れば、その店舗の前にテーブルを設置する
ことも可能となり、人が広場に集まり、にぎわいが生
まれることにつながる。ちょっとした遊具を施設することで子育て世代の憩いのミニ公園
とすることも可能となる。簡易ステージを施設し、演奏会等のイベントを開催するよう
な仕掛けも可能となる。

図3…大橋駅西口広場マップ



地図引用：福岡市 WEB マップを
もとに著者作成

⑧野外ナイトシネマ上映【にぎわい要素①、②】

西口広場に巨大スクリーンを臨時設置し、気候の良い春や
秋の夜に、野外映画上映を行ってはどうか。カフェや屋外バ
ーでビールやコーヒー、軽食を手に取り、映画を楽しむこと
ができるイベントである。

東区の海の中道ホテルルイガンズや西区の木の葉モール
でも夏に同様のイベントが開催されているが、映画館のない
南区の大橋駅前広場で開催することで話題性を呼び、大橋に
人を呼び込むことにつながり、にぎわいの創出が期待でき
ると考える。



写真 21…野外ナイトシネマ
出典：ザ・ルイガンズ

⑨地域のアート作品展示所（看板）【にぎわい要素①】

西口広場内に大橋周辺の地域住民が作成した絵画等のアート作品を展示できる展示所
（看板）を設置してはどうか。

例えば、幼稚園児や小学生が母の日や父の日に書いたお母さんお父さんの絵画を展示する、公民館活動でおじいちゃんおばあちゃんが作成した作品を展示するようなイメージである。

大橋駅周辺の地域住民のアートが集まり表現される場とし、人が集まる場となるのではないだろうか。



写真 22…父の日絵画作品展

出典：著者撮影

（４）大橋駅周辺まで歩きたくなる仕掛けを

上記（３）では大橋駅西口広場における施策を提言した。この施策を複数組み合わせることで、大橋駅西口広場のにぎわいを生み出すことができると考えている。

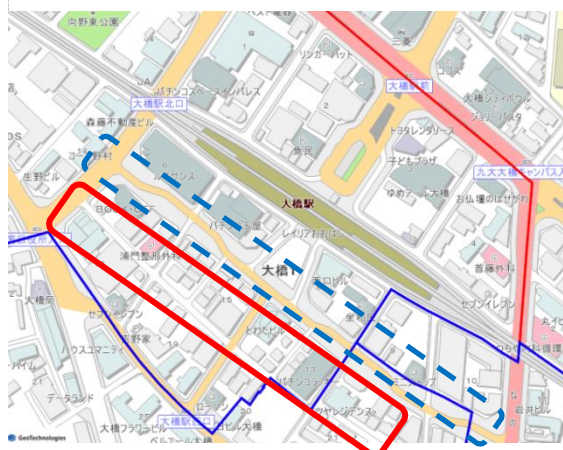
次のステップとして、西口広場だけではなく、西口広場の周辺をはじめ大橋駅周辺全体ににぎわいを広げていくことで、歩きたくなるまちづくりにつなげることができるのではないだろうか。

西口広場の西側には車道が南北に走っている。（右図の点線囲い部分）その車道に沿って比較的幅広い歩道が伸びており、歩道沿いには飲食店やショップ等が連なっている。この歩道にもベンチを設置したり、音楽を流したり、花壇やモニュメント等のアートを設置する等して、歩きたくなる仕掛け作りも可能と考える。

この車道の西側（右図の実線囲い部分）の小道には居酒屋やスイーツショップが点在している。また、大橋はラーメン店も多い。このような店舗が一画に整然と固まって存在するのではなく、まだらに点在しているのが大橋の特徴の一つと考えており、歩くことによって自分独自のお気に入りの店舗を発見することができるのが大橋の魅力と考える。大橋駅西口広場ににぎわいを生み出す施策を取り入れ、その上で広場隣の車道に沿った歩道にも歩きたくなるような施策を取り入れることで、更にはその周辺の探検につながる、大橋はそのような楽しみがあるまちである。

つまり、大橋駅西口ににぎわいを生み出すことができれば、大橋駅西口広場を起点とする、大橋駅周辺地域が歩きたくなる、にぎわいのある空間になるのではないかと考える。

図 4 …大橋駅西口広場周辺マップ



地図引用：福岡市 Web まっぷをもとに著者作成

おわりに

「はじめに」で述べた通り、これまで提言してきた大橋駅周辺のにぎわい創出に向けた施策を本論文で終わらせるのではなく、今後実践に移していきたいと考える。

そのためには、福岡市及び大橋駅周辺のまちづくりに取り組んでいる方々を巻き込んでいく必要がある。

3（2）で触れたが、大橋駅西口広場は広場ではなく道路という扱いになっており、物を常設する等、【にぎわい要素】を作り出すために優先度が高いと考える「場」の施策を行うことに超えるべきハードルがある。しかしながら、全国的に見れば、道路の活用方法を見直し、まちづくりを行っている事例もあり、道路である西口広場を有効活用する方法はあると考える。

<道路の活用方法を見直した事例>

大阪市では、令和元（2019）年に「御堂筋将来ビジョン」を策定しており、これに基づき、大阪のメインストリートである御堂筋を車中心から人中心のストリートへと空間再編を進めている。現在、車道本線と歩道の間にある側道の歩行者空間化を進めており、段階的に人中心の空間に広げていく施策を実施している。

現状、西口広場の管理者は福岡市南区役所であるため、南区役所企画振興課、維持管理課に対して大橋駅周辺のにぎわいづくりに向け、西口広場のポテンシャルを活かすためにはどうすればよいのかを相談することがスタートになると考える。まちを元気にしていくことは、地域として必要な取り組みであり、予算面を含めた行政の関りは必須であると考えている。

その次のステップとして、大橋を元気にしたいと考えている団体、大橋商店街連合会、一般社団法人街×人（マチビト）、西鉄レイリア大橋等に対しても、大橋のにぎわい作りに向け協力を取り付けていくことになるかと考える。また、大橋駅周辺には、九州大学や純真学園大学、香蘭短期大学、筑紫丘高校等の学校もあり、若い力を取り込むことができるとなおよい。大橋を元気にしたいという想いを共有できる協力者、仲間を作り、一歩ずつでも実現に向けて前に進んでいきたいと考える。

本論文において、大橋駅を舞台に考察した内容について、福岡市の他の拠点地区でも共通することはあると考える。4（3）で提言した施策を前提に考えると、下表のとおりと考える。

表 5…福岡市の他の拠点地区でも共通する施策

施策内容	実施可否	施策内容	実施可否
①ベンチ（テーブルベンチ）の設置	○	⑥音楽が楽しめる広場	○
②カフェ、屋外バーの設置	○	⑦歩行者天国化	△
③季節折々の花で彩られた花壇	○	⑧野外ナイトシネマ上映	×
④西口広場のヨーロッパ化	×	⑨地域のアート作品展示所（看板）	○
⑤マルシェの開催	○		

出典：著者作成

今後、大橋駅周辺のにぎわい作り活動に取組み、福岡市の他地区の拠点地区に対しても提言することができればとも考えている。どの地区でも共通してできる施策は共有し実施しつつ、一方で、その拠点地区ならではの特色も出しつつ、各拠点地区のにぎわい創出につなげていけるとよい。その結果、福岡市全体が、歩きたくなるようなにぎわいの溢れる都市として、更に発展していくことにつながっていくことを願っている。

<参考文献>

- ・『駅前再開発とまちづくり』LANDSCAPE DESIGN No. 103, 2015.
- ・フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』福岡市
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A6%8F%E5%B2%A1%E5%B8%82>
- ・フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』大橋 (福岡市)
[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%A9%8B_\(%E7%A6%8F%E5%B2%A1%E5%B8%82\)#%E9%89%84%E9%81%93](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%A9%8B_(%E7%A6%8F%E5%B2%A1%E5%B8%82)#%E9%89%84%E9%81%93)
- ・オープンポータル <https://opendata-web.site/>
- ・大阪市ホームページ <https://www.city.osaka.lg.jp>

<注釈>

- (1) 国土数値情報ダウンロードサービス令和3(2021)年度データ
- (2) 国土数値情報ダウンロードサービス令和3(2021)年度データ
- (3) 福岡市南区役所地域振興課にヒアリング
- (4) 福岡市南区役所地域振興課にヒアリング

